



[特集] 実態調査結果まとまる 友の会活動には8割が満足 セミナー参加率、3割にとどまる

昨年9月に会員の皆さんを対象に実施しました「友の会の実態調査」の結果がまとまりましたので、その概要についてご報告します。

この調査は、発足後2年を経過した「江戸東京博物館友の会」(以下「友の会」と略す)の活動が会員の皆さん方にどう受け止められているのか、また、会員は友の会に今後どのような運営・活動を期待しているのかを把握し、今後の「友の会」の効率的な運営に寄与することを目的に実施したものです。



調査時点に在籍されていた888名に調査表(質問表)をお送りしたところ、なんと535名の方から回答をいただきました。回収率は60.2%という高さで、会員の皆さんの熱い期待がう

かがえ、心から感謝申し上げます。

最初に、回答いただいた535名のプロフィールをご紹介します。

性別では、3人に2人が男性です(男性66.9%、女性30.8%)。

年齢別では、60代37.8%、70代27.9%、50代16.8%で、80代以上の3.2%を加えると、60代以上が約7割を占め、40代以下は12.7%にとどまっています。なお、平均年齢は63歳です。

職業別では、無職40.9%、会社員16.3%、主婦11.8%、その他11.2%、自営業10.7%で、全体の9割となります。

居住地別では、東京都71.0%(23区内62.4%、23区外7.9%、単に東京0.7%)、千葉県10.1%、埼玉県7.3%、神奈川県5.2%で、これら一都三県以外の会員は4.5%です。

(2ページに続く)



ハ・イ・ラ・イ・ト

- 2003年度末になりました。新年度も引き続き、友の会活動に積極的なご支援、ご協力をお願いします。
- 友の会実態調査の結果報告を特集しました。この結果は会員の声が集められたものです。新年度に向けて、会員主体の友の会運営や活動計画・実行の指針にしていきましょう。
- セミナーなどの活動報告
・2/2 特別内覧会「円山応挙展」
- えど友プラザ 会員投稿のページ
- 〈江戸博クリップ〉館員エッセー
- [シリーズ] ミュージアムショップ 名店めぐり〈10〉麴饅頭「ふいち」
- 役員会・各部会「会議日誌」
- 《事業部会だより》
・3/6 セミナー「読み解き忠臣蔵」
・3/14 創作講座「手描友禅」
・3/27 見学会 特別企画バスツアー「家康の駿府城とその周辺」
- この会報は、皆さんと一緒に創るコミュニケーション情報誌です。ご意見、ご要望、投稿などをお気軽にお寄せください。

会員継続更新のお知らせ

●手続きはお早めに！

友の会は会員の皆さんで支えられています。会員資格は1年間です。まもなく有効期限を迎える方は更新の手続きをお願いします。

該当の皆さんには「継続手続き書類」が郵送されますので、お早めに手続きをお願いいたします。

*更新しませんでした、友の会活動への参加や会員特典を受けられなくなります。ご注意ください。

(1 ページから続く)

入会歴別では、1年以下31.5%、2年超45.5%となっています。

次に、各質問について見ていきます。

「友の会を知ったキッカケ」は、約半数が「入会案内」

友の会を知ったキッカケは図1のとおりです。

「その他」の中には、「江戸東京博物館で」とする人が20人近くいて、注目すべきは「書籍」や「新聞」、あるいは「学芸員資格テキストに掲載されていた」を挙げた人も見られます。

年代別では、70代の4人に1人が「友の会準備局*からの案内」(25.6～25.4%)を挙げ、80歳以上では「友人の紹介」(23.5%)、50代以下では「ホームページ」(11.6～15.8%)が多くなっています。

入会歴別では、会員歴2年超の層で「友の会準備局*からの案内」が30.3%を占めています。

(*注)「友の会準備局」は友の会設立時の組織で、現在は存在しません。

一方、会員歴の浅い1年以下の層では「ホームページ」を挙げた人が13.6%も占めており、IT(情報技術)化の進展とともに今後ますます注目されます。

「入会の目的」は「趣味を豊かにするため」が66.2%でトップ

「趣味を豊かにするため」66.2%、「教養を高めるため」40.4%、「自由時間を有効に活用するため」36.4%、「各種の特典があるので」30.5%、「生きがいつくりのため」22.1%が上位5位を占め、以下「他の人と交流する機会を作るため」11.8%、「その他」10.1%、「同じ趣味の人を探していたため」5.4%、「友人・知人に勧められて」3.7%と続き、「特に理由はない」と「無回答」がともに0.4%となっています(この質問は複数回答です)。

なお、「その他」の中には「江戸・東京が好き」という人が大変多く、「江戸博を応援したい」「特別展」や「イベント」の

情報を知りたいためという目的も見られます。

性別では、男性で「教養を高めるため」が42.7%、「自由時間を有効に活用するため」が39.1%となっていますが、これは女性の占率を7～8%上回っています。

年代別では、「趣味を豊かにするため」は70代で70%を、「教養を高めるため」は70代後半で50%を、「自由時間を有効に活用するため」は60代から70代前半で40%を、「各種の特典があるので」は40代・50代で40%をそれぞれ超えています。

職業別では、自営業が「同じ趣味の人を探していたため」で12.3%、主婦が「生きがいつくりのため」で31.7%、無職が「自由時間を有効に活用するため」で47.9%と高い占率を示しています。

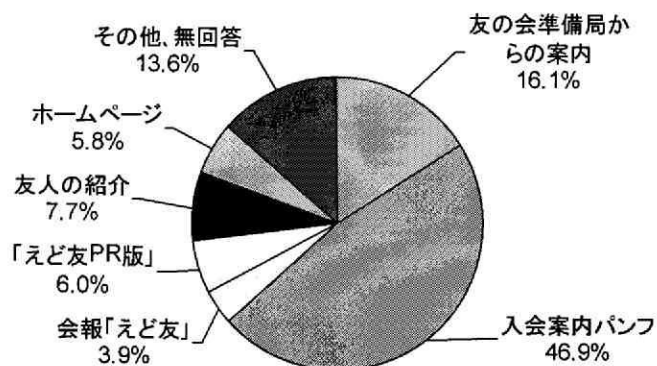
参加したい行事・企画別では、友の会セミナーや名所・旧跡などの探索を希望する層は「自由時間を有効に活用するため」で45%近くを、古文書講座や名所・旧跡などの探索を希望する層は「趣味を豊かにするため」で7割以上の高い占率をそれぞれ示しています。

「友の会セミナーの参加状況」

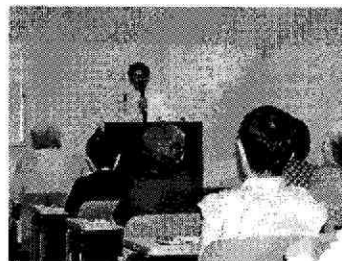
3人に2人は参加せず

調査前5回の友の会セミナーの参加率は、「幕府の仕組みと変遷」21.1%、「江戸の流通と湊の情景」12.7%、「吉原とはこんな所でした」10.8%、「明治の女子留学生達が米国から学んだこと」6.5%、「光の芸術江戸切子」4.5%の順で、「いずれも参加しなかった」が66.7%となっていることからわか

【図1】友の会を何で知りましたか



独自企画の友の会セミナーは、
興味あるテーマで人気を呼ぶ



るとおり、参加率は決して満足すべきものではありません(この質問は複数回答です)。

年代別では、40代、50代で「いずれも参加しなかった」が8割以上となっています。

入会歴別では、1年以下の各層で「いずれも参加しなかった」がやはり8割を超えています。

関心を持つ時代別では、江戸後期に関心を持つ層が「幕府の仕組みと変遷」(27.6%)や「江戸の流通と湊の情景」(18.7%)で高い占率を示しています。

「友の会セミナー」は9割が満足

友の会セミナーに一度でも参加した人の満足度は、「大いに満足」18.5%、「まあまあ満足」72.0%、「どちらかといえば不満」3.6%、「大いに不満」0%、「無回答」6.0%からもわかるように、参加者の満足度(「大いに満足」と「まあまあ満足」)は高く9割を超えています。

参加したセミナー別に満足度を見ると、「幕府の仕組みと変遷」と「江戸の流通と湊の情景」がともに91.1%、以下「吉原とは、こんな所」89.7%、「明治の女子留学生達が、米国で学んだこと」84.0%、「光の芸術江戸切子」83.3%の順で、**占率**にそれほどの開きはありませぬ。ただ、「大いに満足」に限って見ると「吉原とは、こんな所」が25.9%と最も高くなっています。

「セミナーの不参加理由」は「開催時刻が合わない」が最多

「友の会セミナー」に1回も参加できなかった人にその理由を聞いたとこ

ろ、「開催時刻が合わなかった」32.8%、「ほかに予定があったため」31.7%、「その他」24.6%、「開催が平日だった」18.5%、「参加したいテーマでなかった」13.7%、「会場が遠かった」6.2%、「特別の料金を払うため」1.7%、「時間が長い」ため」1.1%、「無回答」12.0%となっています(この質問は複数回答です)。

「その他」の中の理由としては、「会に入っていなかった」や「入会したばかり」が大部分を占めています。

性別では、女性が「開催時刻が合わなかった」と「ほかに予定があったため」でともに37.7%と高い占率を示しています。

年代別では、50代が「開催が平日だった」で29.3%、40代が同じく38.5%と高くなっています。

職業別では、会社員が「開催が平日だった」で43.8%と高くなっています。

実施した5回のセミナーはいずれも平日開催であることから、セミナーへの参加を今後高めるためには、テーマの設定はもちろん、開催日・開催時刻についても検討する余地があるように思われます。

「友の会活動全般の評価」は満足層が約8割

これまでの友の会活動全般についての評価は、「大いに満足」および「まあまあ満足」という意見が合わせて78.2%(同男性80.7%、女性71.6%)ですから、満足度は極めて高いといえます。

むしろ友の会としては、不満層(「どちらかといえば不満」6.7%、「大いに不満」0.7%)に関心を持つべきだと思います。なお、不満層は男性で6.9%、女性で

9.1%です。

不満層は、年代別では40代が11.6%、50代が14.4%、職業別では会社員で12.6%、主婦で9.5%と高くなっています。

友の会セミナーの参加別では、不満層はセミナーに参加しなかった層で8.9%を示しています。

「興味・関心を抱く領域」のトップは名所・旧跡の61.3%

今後の行事や企画立案の参考にするため、会員がどんな事柄に興味・関心を抱いているのかを尋ねたものです(この質問は複数回答です)。

上位5位は「名所・旧跡」61.3%が最も高く、「江戸城・幕府」57.4%、「街道・宿場」57.0%、「歴史上の事件・社会動向」50.5%、「神社・仏閣」48.6%と続き、同6位から10位は「長屋・下町」41.3%、「浮世絵・切絵図」40.9%、「武家・商人」40.2%、「老舗・名物」39.4%、「落語・寄席」38.3%で占率にそれほど大差はありません。同11位から15位は「江戸ことば・東京ことば」35.9%、「隅田川・神田川」33.3%、「芝居・演劇」31.6%、「開国・文明開化」31.4%、「遺跡・出土品」27.3%、同16位から20位は「花見・花火」18.9%、「大道芸・盛り場」18.9%、「戦争・終戦」16.8%、「火事・地震」16.3%、「戯作・黄表紙」16.3%、以下「都市化・大衆化」16.1%、「ファッション」11.6%、「その他」5.4%、「無回答」1.9%の順です。

なお、「その他」には粋・和、江戸時代の光と影、江戸時代の訴訟・警察などが見られます。

性別では、男女で占率に開きの大きいのは、「江戸城・幕府」(男性60.1%、

女性52.7%)、「神社・仏閣」(男性45.8%、女性52.7%)、「長屋・下町」(男性43.3%、女性38.2%)、「老舗・名物」(男性36.3%、女性46.7%)です。同様に10位以下では、「江戸ことば・東京ことば」(男性31.0%、女性46.1%)、「芝居・演劇」(男性25.1%、女性47.3%)、「大道芸・盛り場」(男性20.9%、女性13.9%)、「火事・地震」(男性18.4%、女性10.9%)、「ファッション」(男性8.4%、女性17.6%)となっています。

参加したい行事・企画別では、友の会セミナーに参加したいと思っている層は、「歴史上の事件・社会の動向」57.8%、「長屋・下町」46.8%、古文書講座に参加したいと思っている層は「武家・商人」45.2%、一つのテーマについて深掘りする講座に参加したいと思っている層は「長屋・下町」47.1%、「武家・商

人」52.9%、名所・旧跡などの探索に参加したいと思っている層は「名所・旧跡」82.8%、「街道・宿場」66.4%、「神社・仏閣」55.7%でそれぞれ高い占率を示しています。

「関心のある時代」は江戸中期・後期が半数

占率の高い順に列挙すると、「江戸中期」25.4%、「江戸後期」25.0%、「幕末」17.2%、「江戸初期」8.6%、「明治」6.2%、「江戸以前」5.8%、「昭和」3.0%、「大正」0.4%、「無回答」は8.4%です。半数の人が「江戸中期」、「江戸後期」に関心を示し、「幕末」を含めると約7割近いことになります。

年代別では、「江戸初期」は60代で

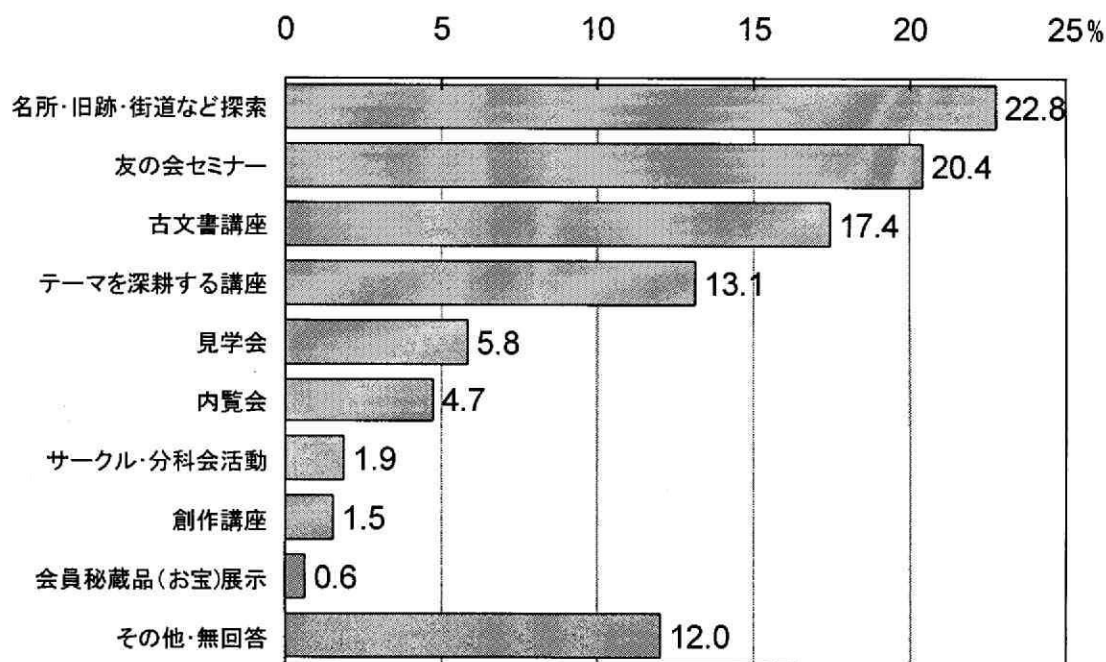
13.5～14.3%、「江戸中期」は40・50代で30.2～33.3%、「江戸後期」は60代後半で32.7%、70代前半で31.4%、「幕末」は50代で22.2%、70代後半で25.4%とそれぞれ高い占率を示しています。

参加したい行事・企画別では、友の会セミナーや古文書講座を望んでいる層は「江戸中期」(30.3%～31.2%)に、名所・旧跡などの探索を希望している層は「幕末」(20.5%)に、さらに見学会を希望している層は「明治」(16.1%)にそれぞれ関心を抱いています。

「今後、希望する行事・企画」のトップは名所・旧跡・街道の探索

今後、参加したい行事や企画を尋ねた結果は、図2のとおりです。

【図2】 希望する行事・企画 (複数回答)



江戸開府400年・開館10周年記念で
賑わった昨年の友の会特別内覧会



まだ実施したことのない「名所・旧跡・街道などの探索」と「一つのテーマについて深掘りする講座」が1位と4位を占め、期待の大きいことがわかります。「その他」としては会員と館職員のブレストという希望が見られます。

「名所・旧跡・街道などの探索」を希望する層の特徴を見ると、年代別では50代(25.6%)ならびに60代後半(26.9%)、職業別では自営業(26.3%)や主婦(31.7%)、入会歴別では1年6カ月以下の各層(25.0～29.3%)、入会目的別では自由時間を有効に活用するためとする層(27.2%)や趣味を豊かにするためとする層(26.6%)、また、江戸初期(34.8%)や幕末(27.2%)に関心のある層などが挙げられます。

また、「一つのテーマについて深掘りする講座」について占率の高いのは、年代別では40代(16.3%)、50代(16.7%)、江戸初期(19.6%)や明治(18.2%)に関心を抱く層となっています。

「参加しやすい曜日と時間帯」は、平日ならば午後1時～7時が約7割

1)全体

「午後1時～午後7時」54.6%、「午前中」12.9%、「午後7時以降」6.7%、「いずれでもよい」17.0%、「無回答」8.8%となっています。

性別では、男性は「いずれでもよい」21.2%、女性は「午前中」18.8%で高くなっています。

職業別では、主婦は「午前中」が23.8%、会社員・自営業者は「午後7時以降」が16%前後でそれぞれ高くなっています。

2)平日を希望する人の参加しやすい時間帯

い時間帯

「午後1時～午後7時」を望む人が最も多くて66.8%、以下「午前中」15.1%、「いずれでもよい」6.2%、「無回答」6.2%、「午後7時以降」5.8%の順となっています。

職業別では、会社員がサンプル数は19で少ないものの「午後7時以降」で42.1%、主婦が「午前中」で29.5%と高くなっています。

3)土・日・祝日を希望する人の参加しやすい時間帯

「午後1時～午後7時」を望む人が54.4%と減少し、反対に「いずれでもよい」が20.0%と増え、「午前中」14.4%、「午後7時以降」8.0%、「無回答」3.2%となっています。

職業別では、土・日・祝日を望んだ人(125人)の中に会社員が51人(40.8%)占めていますが、「午前中」(19.6%)と「いずれでもよい」(25.5%)が全体よりもかなり高くなっています。

「家族割引制度などへのニーズ」は意見が分かれる

この質問は、どのような会費の割引制度を希望しているかを尋ねたものです。

その結果、「家族割引制度」23.7%、「複数年会員の割引制度」26.9%、「高齢者割引制度」24.7%で、それぞれの占率はほぼ拮抗(きっこう)しています。「希望しない」は14.2%、「その他」2.4%、「無回答」8.0%で、「その他」には今程度の会員数なら不要との意見も見られます。

性別では、女性で「複数年会員の割引制度」が約3割と高く、年代別では、「複数年会員の割引制度」は50代以

下の層に高く、反対に「高齢者割引制度」は70代以上で45%以上となっています。なお、40代では「希望しない」が2割を占めています。

職業別では、「家族割引制度」は主婦層に、「複数年会員の割引制度」は会社員層に、「高齢者割引制度」は無職層にそれぞれ高くなっています。

圧倒的な占率を示すものがないため、どの制度を採用したらよいかは調査結果からは汲み取れません。ただ、いずれの制度を採用するにしても、事務量の増加が予想されることや、「家族割引制度」の導入には家族の定義やチェック方法の問題もあることから、むしろ、年間何人かの同行者を認めるような方法も考えられます。

「懇親会の開催希望と回数」は7割が現行で満足

1)懇親会の開催希望

現状では懇親会は年に1回、総会後に開催されていますが、これについて尋ねたところ「もっと多いほうが良い」13.3%、「現行のままで良い」69.5%、「開催の必要はない」8.0%、「無回答」9.2%で、総会当日のみということに不満があるかとの予想に反し、概ね満足している結果となりました。

年代別では、「もっと多いほうが良い」とする意見は60代後半で20.2%、「開催の必要はない」は60代前半で12.2%と高くなっています。

2)懇親会の希望回数

次に、「もっと多いほうが良い」と答えた人に希望する回数を尋ねたところ、「2回」47.9%、「3回」14.1%、「4回以上」19.7%、「無回答」18.3%であること



友の会の最新情報を随時伝える
ホームページ(えど友Web)

から、増やすとすれば年2回ということでしょう。

「パソコンの利用方法」は、4割がインターネットを利用

インターネットの利用方法について尋ねた質問で、「利用している」43.9%、「利用していない」28.0%、「将来利用したい」16.3%、「将来も利用する考えなし」7.1%、「無回答」4.7%です。「利用している」と「将来利用したい」を加えると60.2%となります。図3参照。

性別では、「利用している」は男性49.4%、女性35.2%で、女性の普及率は低くなっていますが、「将来利用したい」とする人の占率は反対に男性(14.2%)よりも女性(21.8%)で高く、「利用している」と「将来利用したい」を合わ

せると男性63.6%、女性57.0%となります。

年代別では、「利用している」占率は30代で89.5%と最も高く、年代が上がるにつれて減少し、80歳以上では17.6%となります。なお、「将来も利用する考えはない」とする意見は60歳未満では皆無です。

職業別では、「利用している」は会社員で58.6%、サンプル数は少ないものの教員、パート・フリーターでも5割を超え、主婦で34.9%、無職で37.0%となっています。「将来利用したい」は主婦27.0%、その他23.3%で高くなっています。

入会歴別では、入会歴1年以下の層では「利用している」が5割以上と高くなっています。インターネットの普及は今後ますます期待でき、アンケートに見られた傾向も急速に変化していく

ものと考えられます。

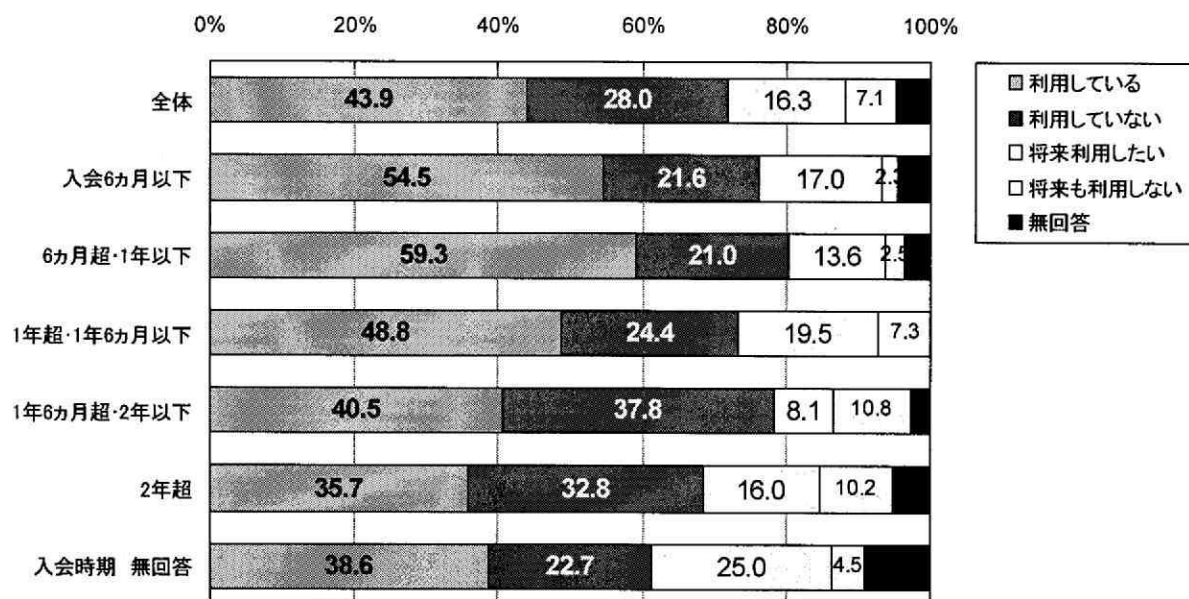
以上の質問のほかにも、「友の会に協力してもよい、得意な技能・知識・特技」や「友の会活動全般についての意見・希望」についても多くの方から回答いただきました。誌面の関係でご紹介できませんが、なにとぞご了解ください。

特に、「友の会に協力してもよい、得意な技能・知識・特技」をお書きいただいた方には、今後お声をかけることがあるかと思いますが、その節はぜひご協力をお願いします。

以上が概要ですが、今回の調査結果を踏まえ、友の会活動がたとえ一歩でも前進して行けたらと思います。

【報告】2003ワーキング・グループ
菅沼和男 [図版作成] 広報部会・巻瀨彰

【図3】インターネットの利用状況





江戸東京博物館友の会 特別内覧会(2004/2/2)

円山応挙展 —〈写生画〉創造への挑戦—

「松に孔雀図襖絵」などを立体的に再現

江戸開府400年・開館10周年記念企画展「円山応挙〈写生画〉創造への挑戦」(会期:2/3-3/21)の特別内覧会が2月2日(月)に開催されました。

午後3時からの開会式はNHK住吉美紀アナウンサーの司会ですすめられ、竹内館長は冒頭のあいさつで「《牡丹孔雀図》や海外からの里帰り作品《幽霊図(お雪の幻)》など、名作が一堂にそろった今回の展覧会で、写生画創造の祖、円山応挙の画からモノ

の本質や真意をくみとってもらいたい。上方文化との対比によって江戸東京の位置づけを明らかにしたい」と述べました。NHK海老沢会長、毎日新聞社斉藤社長の祝辞に続き、本展監修の京都造形芸術大学客員教授、佐々木正子氏は「応挙没後204年の今日、再度絵画の基本となっている写生とは何かを見つめなおし、品格ある世界を味わってもらいたい」と本展への思いを述べました。

本展は、現実のものの姿を写す「実の写生」、架空の存在や心にあるイメージを写す「虚の写生」、生命感や品格を写す「気の写生」、絵の中の空間と現実の空間の融合である「虚実一体空間」の4部で構成されており、単に事物を写實的に描くのではなく、それをいったん自分のなかに取り入れ、新たな構図に創造するという応挙の世界観を堪能することができます。

応挙は兵庫県香住町にある応挙寺とも呼ばれる大乘寺で門弟とともに仏教の世界観を写し出すことを試みしました。本展覧会場ではこのうち応挙の描いた3部屋(重要文化財《松に孔雀図襖絵》《郭子儀図襖絵》《山水図襖絵》)を立体的に再現しており、壮大な空間を体感することができます。

【取材】文:広報部会・斉藤美香子

円山応挙展 見どころ

～江戸東京博物館HPから～

円山応挙(1733～95)は、江戸時代の半ばに活躍した絵師で、新たな「写生画」を創造し、それまであった絵画観を一変させました。本展では、重要文化財《牡丹孔雀図》《保津川図(ほづがわず)》や、海外からの里帰り作品《幽霊図(お雪の幻)》、新たにその存在を知られるようになった《円山派粉本雲龍図》などを紹介します。

会場では、円山応挙が門弟達とともにすべての襖絵を描いた大乘寺(兵庫

県香住町)にある三部屋の襖絵を立体的に再現展示し、壮大な空間を体感していただきます。

江戸中期の絵画様式のなかで最も特筆すべきものが、写生画です。丹波国(現京都府)に生まれた応挙は、京で眼鏡絵制作にたずさわること西洋画の画法を体得し、さらに石田幽汀につき狩野派を学びます。やがて円満院門主祐常と知り合い、新たに写生画風が目覚めることになります。

応挙の絵画は、単に事物を写實的に描くというのではなく、いったんそれを自分のなかに取り入れ、新たな構図を創

造したものでした。現実の世界、目に見える世界だけでなく、応挙は新たなモチーフを絵画に取り入れます。架空の生物である龍やこの世のものではない幽霊、当時見ることができなかった虎などです。応挙の絵画世界を次の視点から迫ります。

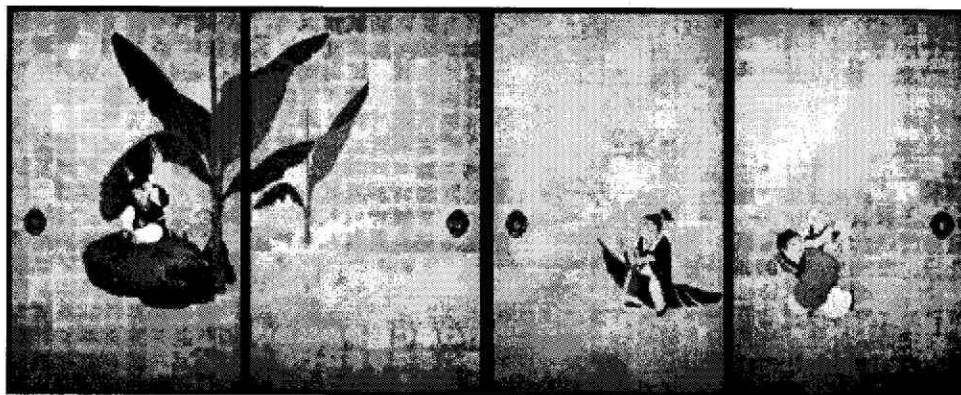
からくりのある絵: 視覚トリック

実の写生: 現実のものの姿を写す

虚の写生: 架空の存在ながら心にあるイメージを写す

気の写生: 生命感や風情、品格を写す

虚実一体空間: 絵の中の空間と現実空間の融合



重要文化財「郭子儀図襖絵」(部分) 天明8年(1788) 兵庫・大乘寺蔵



えど友プラザ

友の会会員のページ

●最新情報は、パソコンや携帯電話で！

ホームページ(えど友Web)。友の会の最新情報、お知らせ、活動予定や会報(えど友)のバックナンバー(Web版)もご覧になれます。携帯電話サイトも開設！ 活動案内などを掲載。アドレスは、<http://www.edo-tomo.jp/>

東京(江戸)の坂

管林 義隆

何で坂にいちいち名前が付いているんだろう？

18歳まで地方で育った私にとって、東京に出てきて不思議に思ったひとつであった。さらに学生生活を終え、徒歩や車で東京都内を飛び回っていた頃、次々に新しい坂名に触れるにつれ、非常に興味を覚えたものである。

地球上坂だらけであり、日本中坂だらけである。なのに、東京ほどきめ細か

く坂に(しかも短い坂、小さい坂まで)名前を付けている所をほかに私は知らない。

そこでちょっと調べてみると、なんと単純で、分かりやすい坂と複雑ないわれの難しい坂がある。土の色が赤いから「赤坂」と付けたいらしい。実に単純明快な坂名が多い。江戸っ子気質がそうさせたようで、理屈がなくて、しゃれっ氣にあふれているという訳だ。富士が見えれば「富士見坂」、海が見えれば「潮見坂」、新しく出来た坂なら「新坂」、急な坂は「高坂」や「胸突坂」、薄暗い坂は「暗闇坂」、墓地のそばなら「幽霊坂」、芥(ごみ)捨場があれば「芥坂」(ごみざか)などなど。

ところで東京から見える富士山の方向は真西ではない。30度ばかり南に片

寄った方向にあり、坂の向きがその方向ならば富士が見えるはずである。「富士見坂」は15ほどあったらしいが、どこもビルが立ち並び、今日、富士が見えるのは日暮里の「富士見坂」だけらしい。「潮見坂」に至っては、海が遠くなったこともあり、今日でも海が見えるという坂は皆無である。

「紀尾井坂」を筆頭に藩邸や人名に由来する坂も数多い。「綱坂」(渡辺綱)、「南部坂」(南部屋敷)、「津の守坂」(松平摂津守)、「三宅坂」(三宅土佐守)、「仙台坂」(松平陸奥守)など。寺院や神社にまつわる坂はきりがな

い。一つの名称が二つの坂に利用された一名二坂が面白い。二つの坂を一つにまとめて「葉研坂」とは言い得て妙

江戸博クリップ

去年11月に、江戸の天下祭りを再現してみようと、千代田区のお神輿や周辺都市の山車を、日比谷公園から丸ビル、皇居前広場へと、半日掛けて行進してもらいました。その日だけで37万人からの見物客が集まり、前日までの2日間の展示を含めると80万人ほど来て下さったそうです。

私は丸ビル前のVIP席近くに陣取って見ていました。行進してきた神輿は、そこで拍子木を合図にこちらに向いて、ウォーッと声を上げて重い

神輿をささげてくれる、良い場所だったからです。そのうち何か一寸したことでしょうが、一番前の人と肩代わりしようとする人とが、大きい声でもつ

お先棒担ぎ

教授 北原 進

れ合いました。拍子木の人と神輿の先頭を切る人は、一群の方向や歩みの調子・早さなどを、身をもって導く重大な任務をもっています。これが“お先棒担ぎ”です。彼はたしかに、大勢の見物人の前で格好いいパ

フォーマンスをすることもできますが、肝心の見せ場で人に先棒を渡すわけには行かなかったのでしょう。

辞書で「先棒担ぎ」をひくと、人の手先になって騒ぎまわる者、とあります。つまりお調子者という意味です。

あとで鳶の親方に聞いたら、「調子良いだけじゃ任せられねえ(ない)よ、頭はつてでも(先頭)役ーう覚えさせん(る)のよー」、という。

…でも、いまだきの若い人に、頭はるなんてできっこないでしょ。

「ねえーに(何)、俺がはって張れねえ(ない)のは、クモの巣だけでえーい」

◆このコラムは学芸員、館員が執筆しています。



赤坂(港区)の起源 といわれる坂は どの坂?

答えは本号にあります
[構成・写真]巻瀧彰



である。片方の坂だけでは葉研にならない。「夫婦坂」や「鼓坂」、「相生坂」、「向坂」も一名で二坂を表現したものである。

東京になってから名前を付けた坂や名前を変えた坂もあるが、江戸時代に付けられた坂は300以上、別名まで入れると500を超えたい。江戸時代、坂は江戸市街地のランドマークであったとか。ことに大火においては、建物は消失して目印にはならず、大火の位置や様子を説明するのに便利だったらしい。焼け跡にくっきりと遠くまで見えるのは、火事で焼けない坂道だけだったのである。

「江戸東京重ね地図」の世話になっているが、坂名の記載は余り多くない。自分の足で探索し、書き込んでいければ幸せである。それにしても坂道の探索はもっと元気なときに始めておくべきだった。

投稿を大募集中!

～テーマは自由、お気軽に～

皆さんからの投稿を大募集しています。

テーマは江戸・東京に関連したものならご自由です。身の回りや町の話、趣味や関心事、疑問質問。また、友の会事業のセミナー、見学会、講座、内覧会のご感想やご意見なども結構です。お気軽にご寄稿ください。

○●○

◆投稿要領——随時掲載します。

短文(表題も)を、手紙かハガキ、HPからメールで投稿。イラスト・図版や写真も歓迎。採用分には記念品進呈。応募締切:毎月末日。会員番号、〒住所、氏名、年齢、電話番号を明記。友の会事務局「投稿」係あて。

会議・会合 日誌

2003/12/1～2004/1/31

◆役員会

12/11(木) 18時から開催。各部会報告などのほか、会則のうち特に「家族会員制度」を協議。出席11名。

1/16(金) 17時から開催。会則の見直し、特に「役員選考方法」などを協議し、今後の進め方などを協議。出席10名。終了後「モア」で新年会。

◆事業部会

12/18(木) 18時半から開催。1月予定事業の担当者決定、2月以後の計画や特別見学会の企画内容などを話し合った。出席13名。終了後「ピアステーション両国」で忘年会。

1/15(木) 18時半から開催。2～3月事業の担当者・準備状況の確認、来年度企画の大枠について話し合った。出席14名。

◆広報部会

12/19(金) 16時から開催。「えど友」第17号の反省、第18号の内容と分担などを話し合った。出席8名。終

了後、「和民」で忘年会。

1/23(金) 16時から開催。「えど友」第18号の進捗確認や第19号の話し合いを中心に行った。出席9名。

◆総務部会

12/25(木) 18時から会報「えど友」第17号の発送作業。出席12名。

◆2003ワーキンググループ会議

〔友の会実態調査実施組織〕

1/21(水) 19時から開催。集計結果の報告について取りまとめた。この報告の役員会提出をもって本グループの役目は終了。今後のデータの活用に期待。出席6名。

江戸東京博物館ミュージアムショップ 名店めぐり〈10〉

伝承芸術がつくり出した味 麩饅頭「ふいち」

鮮やかな緑の笹の葉の包みを開くと、四万十川の淡い海苔の色が美しい麩饅頭(ふまんじゅう)が表れます。ちょっと食べてしまうのがもったいないような、日本の伝承芸術のお菓子です。

創業126年の歴史を持つ麩饅頭の「ふいち」さん(社長4代目初澤清豪さん、墨田区江東橋4-14-5 Tel.03-3635-5658)にお邪魔して、その工程を教えてくださいました。お話を聞かせてくださったのは室長の佐伯さんです。

生麩は小麦粉に塩と水を入れて練ると、固まってきます。それを水洗いすると、白い牛乳のような物がでできます。これが澱粉でくず餅などに使われます。残った物がグルテンといって麩になるもので、栄養価が非常に高いのです。これに餅米の粉を混ぜたものが生麩なのです。生麩は日持ちしません。昔は注文分だけ作っていました。冷蔵庫が一般に普及してから、庶民に広まったのです。

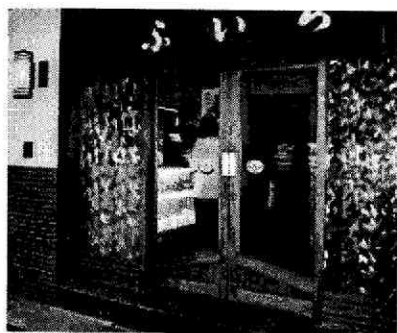
麩饅頭は、生麩にこし餡やごま餡を

包んだ菓子で、冷やして食べると抜群の風味があります。その他、生麩で作った季節の花や手鞠麩などは、懐石料理に使われています。

手鞠麩は小さな手鞠形にした麩に、糸のように細く延ばした色とりどりの麩を巻き付け手芸細工の手鞠のようにしてあります。高級料亭のお吸い物などに浮かんでいるのがそうなのです。桜や筍、紅葉の形をした麩は松花堂弁当に彩りを添えています。こうした手のかかるものは、40年の経験をつんだ熟練した職人さんの手によるものです。

なお、一般的に知られている焼き麩はグルテンまでは生麩と同じ工程ですが、餅米の粉は混ぜずにオープンで焼き上げます。

麩の歴史は古く、千利休の寂茶の古文書に懐石料理の献立がでていますが、これに「ふのやき」という文字があるのです。秀吉の時代から京都に麩屋町通りの名称がありますので、このころから



126年の伝統の味覚と製法 麩饅頭「ふいち」

生麩が作られていたと思われます。

小麦粉は北関東が有力な産地です。麩饅頭を包む笹は水質の良い日本のものでしか使えません。新潟の笹、四万十川の手鞠、茨城県の手鞠を使用しています。

技術習得には、はじめは工場では小麦粉を練ったり、塵のつきやすい笹をていねいに何度も洗ったり、麩を焼いたりして伝承を守るのに懸命だそうです。水びたしの工場ではゴム靴を履き、夏は暑く冬は寒く大変な作業から、上品で美味しい麩饅頭が生まれてくるのです。

江戸博のショップで(予約したほうがいいのかも知れませんが)聞いてみて販売しているようでしたら、ぜひとも味わってごらんください。

【取材】文: 広報部会・岡橋園子、写真: 同 佐藤彦彦

■9ページの答え= 紀伊国坂(きのくにざか)、西側に紀州徳川家の屋敷があった。元赤坂2丁目1番

事業部会だより

これからの友の会活動のご案内です。

- * 参加申し込みをされた方は、やむを得ない事由のほかは、ご欠席されないようご協力ください。
- * 開催日順に掲載。申込方法は最終ページ参照。

古文書講座

●入門編 第3期

- ・開催日時 第1回 1月14日(水)14:00~16:00 終了
第2回 2月 4日(水)14:00~16:00 終了
第3回 3月10日(水)14:00~16:00
- ・会場: 江戸東京博物館・1階会議室
- ・講師: 野尻泰弘さん(学習院大学大学院史学専攻)
- ・参加費: 全3回 1,000円(初回当日払い)
- ・新規申込締切: 受付は終了しました。
- ・第2期の受講者は継続になります。(申込不要)

●初級編 第3期

- ・開催日時 第1回 1月21日(水)14:00~16:00 終了
第2回 2月18日(水)14:00~16:00 終了
第3回 3月24日(水)14:00~16:00
- ・会場: 江戸東京博物館・1階会議室
- ・講師: 西村慎太郎さん(学習院大学大学院史学専攻)
- ・参加費: 全3回 1,000円(初回当日払い)
- ・新規申込締切: 受付は終了しました。
- ・第2期の受講者は継続になります。(申込不要)



駿府城跡 巽櫓、東御門も復元

友の会セミナー

第16回「古文書で読み解く忠臣蔵」

講師 佐藤 孔亮さん(古典芸能ライター)

- ・開催日:3月6日(土) 14:00~15:30 ・申込締切:受付終了しました。
- ・会場:江戸東京博物館・1階学習室
- ・定員:60名 同伴者可(ハガキに氏名連記)
- ・参加費:会員200円、同伴者500円(当日払い)

◆赤穂事件に関して残されているたくさん
の記録の中から、史実としての要点を
示す古文書を読み解きながら事件の真
相に迫っていただきます。

講師略歴:さとう・こうすけ

1956年、大分県生まれ。立教大学文学
部史学科卒。出版社勤務を経て独立、歌
舞伎・落語・相撲などに精通。川柳・都々
逸作家としても活躍中。

・企画責任担当:松原 良(広報部会長)

創作講座

伝統・友禅の世界「手描友禅」

講師 田中 光江さん

特別講師 佐藤 平八さん(友禅作家)

- ・開催日:3月14日(日) 10:00~16:00
- ・申込締切:受付終了しました。
- ・会場:江戸東京博物館・1階学習室

[A] 見学コース 「特別講師から解説、ビデオで技法紹
介、講師の工程実演」

- ・定員:20名 同伴者可(ハガキに氏名連記)
- ・参加費:会員200円、同伴者500円(当日払い)

[B] 体験コース

「①ストール(6,000円)、②プスカーフ(3,500円)、
③色紙(3,000円)」

- ・定員:10名 同伴者可(ハガキに氏名連記)
- ・参加費:上記(会員・同伴者とも同額、当日払い)

・申込時に[A]、[B](①、②、③)の希望を明記

・企画責任担当:黒瀬雅博(事業部会長)

特別見学会

第8回「家康の駿府城とその周辺」バスツアー

- ・開催日:3月27日(土) 07:30~19:30 (集合07:30 出発08:00)
- ・集合:江戸東京博物館・北側パーキング
- ・申込締切:受付終了しました。
- ・定員:90名 会員に限る(ハガキ申込み先着順)
- ・参加費:4,000円(対象は会員のみ)
- ・企画責任担当:岩松 精(総務部会長)

◆コース:江戸博ー東名高速道・足柄SA
ー東海道広重美術館ーゆい桜えび館・おも
しろ宿場館ー日本平ロープウェイー久能山
東照宮(本殿、廟所)ー日本平ロープウェイ
ー駿府城跡ー海老名SAー江戸博

◆江戸開府400年記念と会員への特別
サービスのためのバス旅行です。友の会か
らの補助もあり大変お得な特別見学会で
す。早春の1日を家康の駿府城を中心とし
たコースで楽しみましょう。

特別内覧会

企画展「新選組！」展

- ・開催日：未定(別途案内)
- ・申込締切：未定
- ・会場：江戸東京博物館・1階ホール／企画展示室
- ・同伴者：2名まで可(ハガキに氏名連記)
- ・参加費：1人500円(会員・同伴者とも、当日払い)

◆新選組は、京都で尊攘派の取締にあたり、全国に知られる存在となったが、結成から明治2年(1869)まで、わずか6年。本展はNHK大河ドラマと連動し、新選組ゆかりの地などに残された貴重な遺品、資料から彼らの生き様を回顧する。

◆会期 4/6(土)～5/23(日)月曜休館
月曜が休日のときは翌日休館

講座受講 申込方法

お申込は
通常ハガキで

●通常ハガキでお申込ください。折り返し受講票をお送りします。当日ご持参の上、受付で登録ください。事前申込みがないと受講できません。必ず申込みをしてからご参加ください。

▼申込方法：

通常ハガキに①開催日、講座名②会員番号
③氏名(同伴者は連記)④〒住所⑤電話番号
を明記。友の会へのご意見・ご要望もどうぞ。

・各講座ごと、会員1人1通。

▼申込先：130-0015東京都墨田区横網1-4-1
江戸東京博物館友の会事務局あて
▼締め切り：各講座案内を参照(必着)

会員優待のお知らせ

【特別展】江戸開府400年 開館10周年記念

円山応挙〈写生画〉創造への挑戦 展

会期 2月3日(火)～3月21日(日)
月曜休館(月曜が休日の場合は翌日休館)

好評開催中

・図録 定価2,500円 会員10%割引(会員証提示)
【ご注意】会期中の会場出口物販所のみで適用。
ミュージアムショップでは割引になりません。

会 員：一般600円、65歳以上300円、大専門生480円
同行者：一般960円、65歳以上480円、大専門生760円

企画展 NHK大河ドラマ「新選組！」展

会期：4月3日(土)～5月23日(日)
月曜休館(月曜が休日の場合は翌日休館)

・図録 定価 未定 会員10%割引(会員証提示)
【ご注意】会期中の会場出口物販所のみで適用。
ミュージアムショップでは割引になりません。

会 員：一般550円、65歳以上270円、大専門生440円
同行者：一般880円、65歳以上440円、大専門生700円

活動に参加しよう 各部会員を募集!

事業部会＝事業の企画・運営、広報部会＝〈えど友〉の
編集・PR活動、総務部会＝各種案内の発送・受付
ハガキに、希望部会名、会員番号、〒住所、氏名、電話、
応募事由、を記載して、事務局までご応募ください。



隔月(奇数月)刊。次号は5月1日発行
<http://www.edo-tomo.jp/>

江戸東京博物館友の会
会報〈えど友〉第18号

発行日 2004(平成16)年3月1日
発行 江戸東京博物館友の会事務局◎
130-0015 東京都墨田区横網1-4-1
Tel. 03-3626-9910

編集・制作 友の会広報部会

発行・編集人／佐山彪(副会長) 編集主幹／松原良
編集／大松隼一、菅沼和男、岡橋園子、佐藤幸彦、小柳英二郎、
瀧口逸策、大野晴美、斉藤美香子 レイアウト・版下／巻淵彰

【予告】

「発掘された日本列島2004—新発見考古速報—」展
会期：6月1日(火)～7月7日(水)